Manual ■ さくらさくら

「さくらさくら」は、我が国に伝わる最も有名な日本古謡の一つです。旋律の流れがとても典雅で、合唱や楽器のための編曲など、さまざまなスタイルで演奏されています。今回はこの旋律をずらしてカノンにしました。なじみのある旋律を、ずらして歌うことで生じる 2 度の不協和音の響きは、不思議な世界へといざなわれるようです。2 声、4 声など、パート数を増やすなどして、トーンクラスターと呼ばれる独特の音の響きを楽しんでください。

Step 1
まずは全員で練習する

【ユニゾン】
・出だしの音（ラ音）から、となりの音（シ音）に移るときにしっかり上がる。次のステップで旋律をずらすと他のパートの音につられて音が下がりやすくなるので、ここで十分に練習しておきましょう。
・日本古謡ならではの雰囲気を味わいながら歌いましょう。

☞ユニゾン : 全員で同じメロディーを歌うこと（斉唱）

Step 2
2 つに分かれて歌う

【2 声カノン】
・不協和な音の響きを感じながら歌う。ラ音を歌うときは上がらないように保って、シ音を歌うときはしっかりと上がるよう意識する。
・テンポがずれないように、お互いの音を聴き合いながら歌う。

Step 3
4 つに分かれて歌う

【4 声カノン】
・パートが 4 つになって音の響きが複雑になるので、他のパートに惑わされないよう十分に練習する。
・トーンクラスターを感じながら歌う。

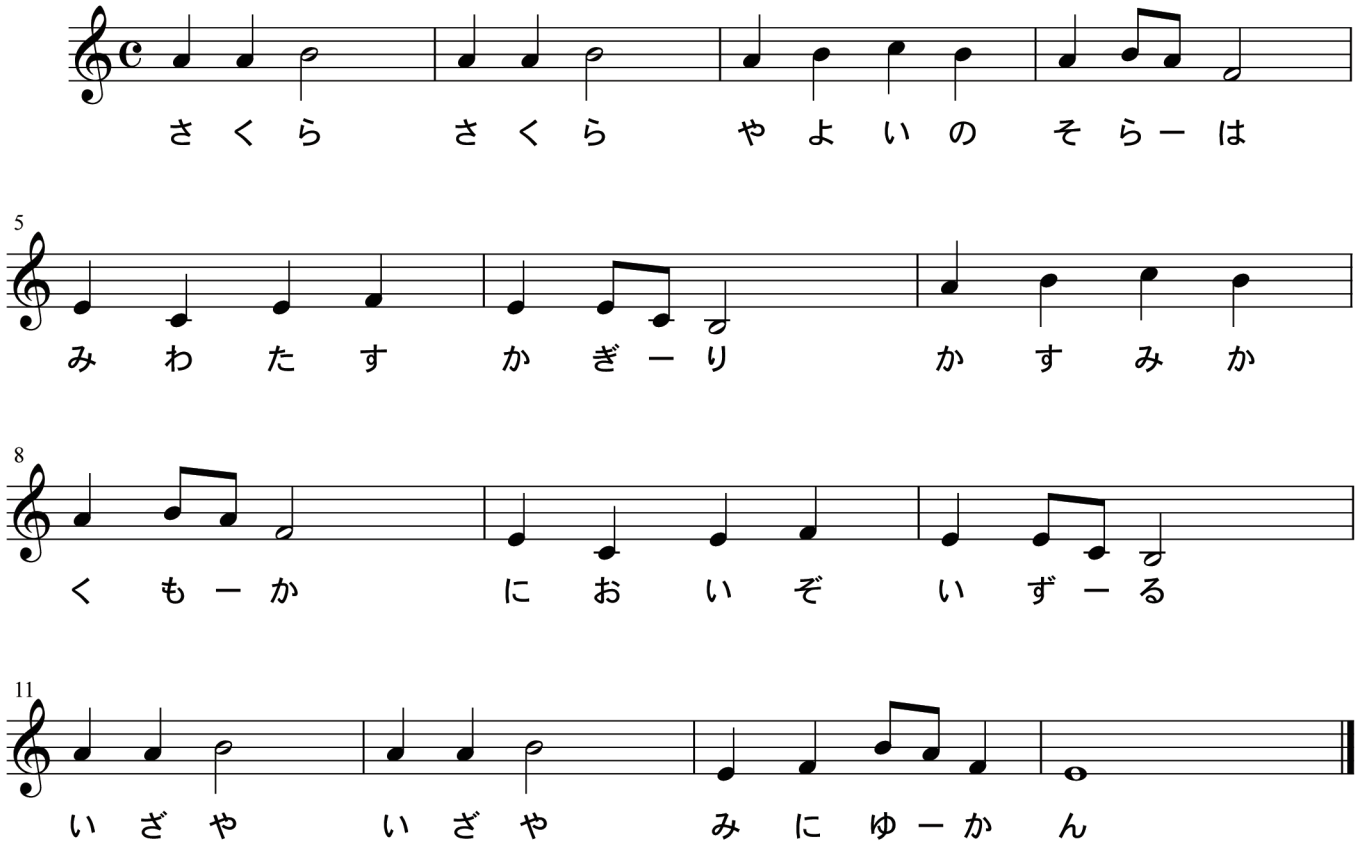
☞用語の解説は、音楽用語のページを参照してください

★ うまくいかないときは、ユニゾンに戻って練習しましょう
★ レガート（なめらか）に歌うことを心がけましょう。レガートに歌うことで、より一層情景が思い浮かぶような表現ができます。

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

さくらさくら

日本古謡



さくら　さくら
やよいの空は
見渡すかぎり
かすみか雲か
匂いぞ出ずる
いざや　いざや
見にゆかん

さくら　さくら
野山も里も
見渡すかぎり
かすみか雲か
朝日に匂う
さくら　さくら
花ざかり

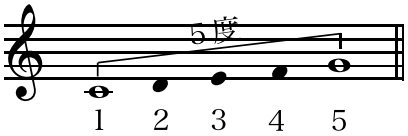
左の歌詞は、昭和 16 年に改められたもので
現在の音楽の教科書では、こちらが主に扱われています。
この歌詞を 1 番、古い歌詞を 2 番、として
歌われる場合もあります。
映像では、古くからあった歌詞で歌っています。

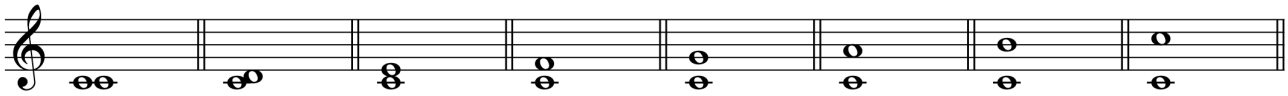
4 声の楽譜は、《付録》を参照してください

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

楽典

■**音程**　2つの音高のへだたり(距離)を音程といい、数字と度であらわします。

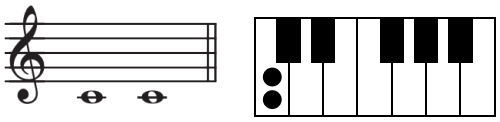




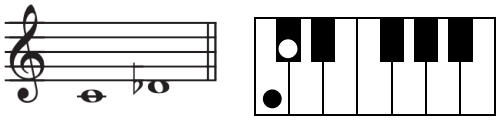
1度　2度　3度　4度　5度　6度　7度　8度

同じ度数でも、2つの音に含まれる半音の数によって響きは異なり、それぞれ長・短・完全・増・減と呼ばれる種類に分けられます。

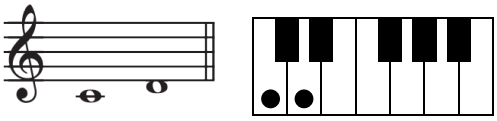
完全1度



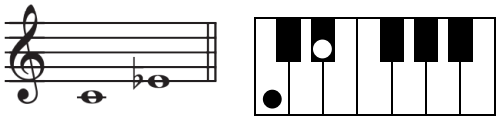
短2度



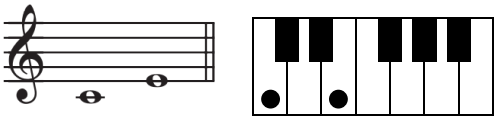
長2度



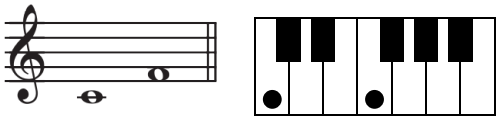
短3度



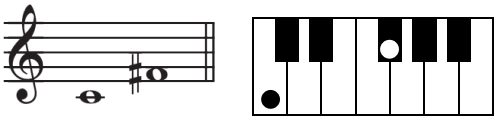
長3度



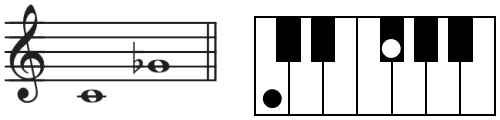
完全4度



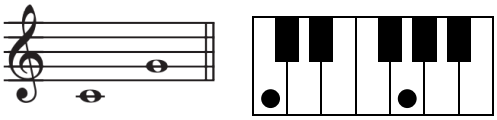
増4度



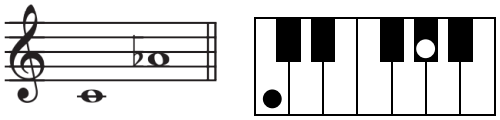
減5度



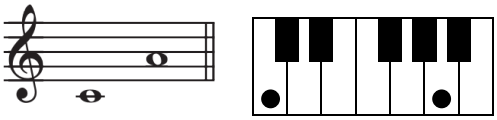
完全5度



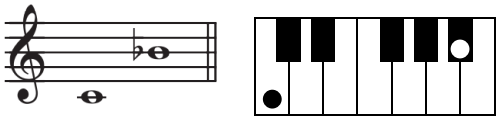
短6度



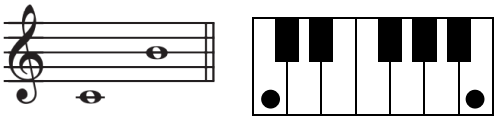
長6度



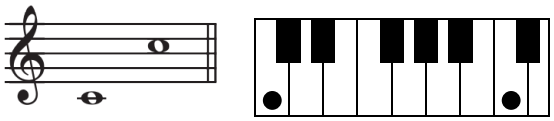
短7度



長7度



完全8度



Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

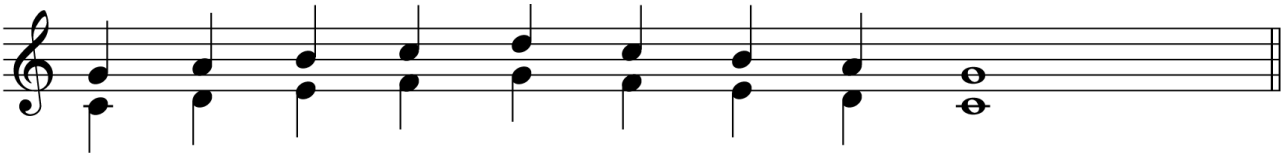
音程を構成する 2 つの音が、よく調和して響くものを「協和音程」といい、濁った響きにきこえる音程を「不協和音程」といいます。また、「協和音程」は調和の度合いによって、さらに「完全協和音程」と「不完全協和音程」にわけられます。

【協 和 音 程】 … ［完全協和音程］ 完全 1, 4, 5, 8 度 ／ ［不完全協和音程］ 長短 3, 6 度
【不協和音程】 … 長短 2, 7 度、増 4 度、減 5 度

■平行と反行

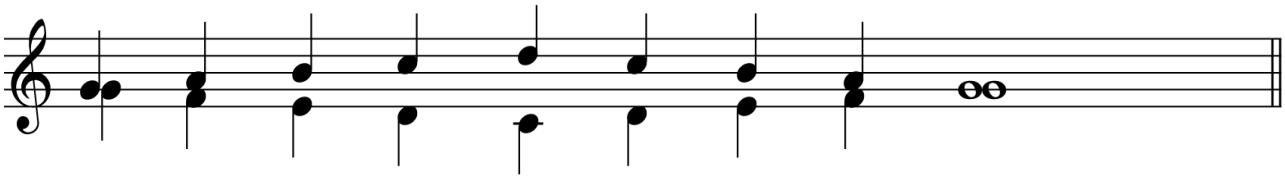
平行

2 つの声部がたがいに同じ方向に動くことをいいます。
また、常に同じ音程間隔を保ちながら進行する場合も平行といい、以下のように常に 5 度音程で進行することを平行 5 度、あるいは連続 5 度といいます。



反行

2 つの声部がたがいに反対の方向に動くことをいいます。



Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.

音楽用語

■ ユニゾン：　同度の音、あるいは同度の旋律を 1 声部あるいは数声部が一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度 の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。

■ カノン：　厳格な模倣様式よる多声楽曲の形式および技法。ある 1 声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2 声カノン、3 声カノンや 2 重カノン、同度カノン、2 度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。

■ ピッチ：　音高（音の高さ）

■ オスティナート：　ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。

■ オブリガート：　助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。

■ 不協和音程：　2 音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。

■ トーンクラスター：　2 度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20 世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。

■ オルガヌム：　9 世紀から 13 世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に 4 度・5 度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は 2 声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1 度・4 度・5 度・8 度の完全音程を中心に、3 度・6 度なども使用された。平行オルガヌム、反行オルガヌム、自由オルガヌムなどがある。

[出典]
・目黒惇編 (1983) 『新訂合唱事典』　音楽之友社
・淺香淳編 (1991) 『新訂標準音楽辞典』　音楽之友社
・柴田南雄，遠山一行総監修 (1996) 『ニューグローブ世界音楽大事典』　講談社
・金澤正剛監修 (2004) 『新編音楽小辞典』　音楽之友社
・小西友七，南出康世編集主幹 (2006) 『ジーニアス英和辞典』第 4 版　大修館書店

参考文献

・フォライ・カタリン，セーニ・エルジェーベト共著 (1975)『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子，谷本一之，中川弘一郎共訳　全音楽譜出版社
・カルドシュ・パール (1994)『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修，菅原恵利訳　全音楽譜出版社

Copyright © Osaka Kyoiku University. All Rights Reserved.